

研修会記録

第1回 インクルーシブ・フレッシュ研修会

1. 日時：令和元年7月5日（金） 16：30～18：00

2. 場所：大阪市立西中学校 多目的室

3. 内容：講演 「授業に生かす応用行動分析」

担当：三国中学校 教諭

◎参加人数： 6名

1) 応用行動分析の基本 ABA 分析と ABC 分析について

応用行動分析をはじめとする行動療法はご褒美と罰でコントロールするものであると考えられてきた。子どもを操作していく印象を持たれることも少なくないが、実は子どもの実情に配慮してスモールステップを積み上げるという堅実な指導法である。特別支援教育で活用するには好ましい行動と好ましくない行動をはっきりと子どもに伝えることが指導の根幹となる。ご褒美は指導者の笑顔と「がんばったね。」の一言で充分、明日の授業からでも実践できる指導法である。

2) 研究協議の内容

- (1) 学んだことのある内容だったが、現場では生かしてなかったことを再確認できた。もう少し詳しく知りたい。今後は現場の指導に生かしたい。
- (2) 月から支援教育担当に変わった。つついスキル、技法にこだわってしまうところがあった。今回、行動分析の目指しているものは褒めてもらうことで子どもたちは達成感を得ること、そして自己有用感を育てることで伸びていくことだと理解した。子どもたちがこの先生に褒めてもらいたいと思う教師になりたいと思う。

3) 参加者アンケート

今回の研修について

- | | | | |
|--------------|---|-------------|---|
| ・有意義だった | 6 | ・まあまあ有意義だった | 0 |
| ・あまり有意義でなかった | 0 | ・有意義でなかった | 0 |
| ・未回答 | 0 | | |

- ・大学の講義で知識として持っていたが、実際に学校で活用している例をあげていただいたので日常の指導に活用する手がかりを得ました。

- ・自分でも応用行動分析を活用してみたいと思いました。参考になる文献を紹介していただきたい。
- ・発達障がい全般についてももう少し知りたい。
- ・褒められて行動が強化されるということがよくわかりました。この先生に褒められることがうれしいと生徒に思われる教師にならなければと思いました。

第2回インクルーシブ・フレッシュ研修会

1. 日時：令和元年9月6日（金） 16：30～20：30
2. 場所：阿倍野市民学習センター
3. 内容：講演 「聴覚障がい超入門 聞こえにくい子どもへの指導・支援・かかわり
講師：同志社大学 准教授

◎参加者数 8名

地域の中学校では視覚障がいのある生徒を担当する機会はあまり多くない。同志社大学の先生は永年、聴覚支援学校で教壇に立たれ、現在、大学では視線に関する研究に取り組んでおられる。成人は視覚から得る情報が多く、聴覚からの情報が制限される聴覚障がいについて視覚障がいほど関心が高いとは言えない。しかし、幼少期に聴覚から得る情報は私たちが思う以上に多く、子どもたちの様々な発達や学習に多くの影響を与えている。健聴者と聴覚障がい者との認知の違いに着目し、理解しやすい授業について講義あった。それは通常の授業においても十分に活用でき、参考になる講演であった。

第3回インクルーシブ・フレッシュ研修会

1. 日時：令和元年9月20日（金） 16：30～20：30
2. 場所：阿倍野市民学習センター
3. 内容：講演 「発達障害のある子どもの得意を活かす指導・授業の工夫」
講師：兵庫教育大学 大学院 教授

◎参加者数 13名

初めに、発達障害のある子どもは学ぶポテンシャルは持っているが、「通常の学級」での授業で学ぶことが苦手であるとし、学びの多様性を尊重しながらユニバーサル・デザインを考慮した授業が必要である。

発達障害のある子どもの良い点を見つけ、得意を伸ばすことでつまづきをカバーすることを目指す指導に心がけるべきでとし、授業において具体的なプランの提案が行われた。苦手なことを克服することも重要であるが、そのことにあまり時間をかけすぎると生

徒の意欲が失われていくことを日々の指導で実感してきたのでこの発想の転換は今後の指導において、重要な示唆を頂いたと思う。

第4回インクルーシブ・フレッシュ研修会

1. 日時：令和元年9月27日（金） 16：30～20：30
2. 場所：阿倍野市民学習センター
3. 内容：講演「発達障害の人が見ている世界を通訳する
～オリジナル画像を使って日常生活から具体的に～」
講師：神戸市発達障害ピアカウンセラー

◎参加者数 8名

講師さんは幼少期より様々な困難を感じながら成長し、成人後、発達障がい診断を受けた。その経験を元に発達障がいの当事者がどのように感じ困っているかについてスライドを利用しながら具体的にわかりやすく伝えていただいた。

また3人の子どもにもそれぞれに発達障がいがあることから、その子育てについても日々の奮闘記として話をしていただけた。障がいの状況は環境調整を経て大きく改善するものであり、周りの配慮で大きく改善することなどお話しされた。

発達障がいの当事者の視点でのお話をされたので、いわゆる健常とされる人たちには理解が難しいことにどう困っているのか、なぜ伝わらないのかについてよく理解できた。

第5回インクルーシブ・フレッシュ研修会

1. 日時：令和元年11月1日（金） 16：30～20：30
2. 場所：阿倍野市民学習センター
3. 内容：講演「特別支援教育の充実に向けて」
～医学知識を活用する～
講師：明星大学 発達支援研究センター 教授

◎参加者数 13名

新学習指導要領の実施等、特別支援教育は新たな段階を迎えている。特別支援教育の充実には、教育についての専門性の向上だけでなく、医療、保健、福祉等他の領域との連携が必要である。医療の分野でも発達障がいに関する認識が深まり、教育にとっても有効な様々な情報が提供されている。診断、病態、治療等の医学的知識は教育現場にとっても不可欠である。先生は経験豊かな臨床医で長年、教育養成にも関わってこられおり、膨大

な医学情報の中から私たちの実践に必要な知識をご説明いただいた。医療や福祉との連携において共通の認識を持つことの必要性を実感した。

第6回インクルーシブ・フレッシュ研修会

1. 日時：令和元年11月8日（金）16：30～20：30
2. 場所：阿倍野市民学習センター
3. 内容：講演「高校・大学における発達障害者のキャリア教育と就活サポート」
講師：京都教育大学 発達障害学科 教授

◎参加者数 11名

初めに、発達障害には性格、特性、診断、障害の段階があり、症状が社会的、職業、その他の重要な領域において臨床的に重大な活動制限をもたらしていることについてそれぞれの段階つまり要支援度に応じて対応を考える必要があることを述べられた。

講師は医師でもあり、診断学的視点からの発達障がいの特徴についてお話されたが、大半の内容は医学的視点というよりも教育的な視点からであった。

高等教育段階についてもお話をされ、大学においても、発達障がいのある学生は一定以上存在すること。卒業後の就労に向けての支援が必要であることなど普段、義務制の学校に勤める者にとっては知らなかった高等教育における発達障がいの現実について知ることができた。

第7回インクルーシブ・フレッシュ研修会

1. 日時：令和元年11月22日（金）16：30～20：30
2. 場所：阿倍野市民学習センター
3. 内容：講演「学習に困難のある子の支援」 ～読み書きの困難を中心に～
講師 関西国際大学 教育学部 教授

◎参加者数 13名

今教育現場で進められている合理的配慮について改めてその意味について解説がなされた。「合理的配慮」はその原語“reasonable accommodation”から「配慮」より「適合・調停」のニュアンスであり、障害のある人への特別扱いではなく一人一人に応じた適切なサービスや支援の提供であると理解できた。

その後読み書きの困難について、支援のアプローチの在り方についての検討がなされた。その中で我々が学校の中で当たり前に思っていることと、実際に社会で必要とされる力に大きな違いがあることに気づかされた。書き順や細かな跳ねや止めの問

題、読めることと内容理解の力が同じでないことなど、教師としての常識に囚われることで子どもの学びを妨げているかもしれないということ、子どもの学びを中心にした教育の展開を考えることの重要性を学ぶことができた。

第8回インクルーシブ・フレッシュ研修会

1. 日時：令和元年11月29日（金）16：30～20：30
2. 場所：阿倍野市民学習センター
3. 内容：講演「すべての子どものやる気を引き出す指導法について」
講師 梅花女子大学 心理子ども学部 教授

◎参加者数 17名

すべての子どものやる気を引き出すという非常に漠然とした印象を受ける演題とは逆にお話の内容は明確で様々な課題に具体的な対処法を提示されるものであった。

それは講演の内容が全て応用行動分析に基づいたものであるからで、特に一次性強化子としての指導者の笑顔が非常に有効であることについて解説が非常にわかりやすく、印象的であった。先行する指導者の指示、提案は一つだけにすること、好ましい反応が得られた時にはすかさず、笑顔で「よくできたね。」「すごいよ。」などの言葉がけをすること。すぐにでも実践できる指導法を具体的に、分かりやすく解説されていた。

今回、大阪特別支援教育振興会の特別支援教育講座は最終回を迎えた。参加者は仕事の後、講演会場に駆けつけ、講師の先生方も参加者のニーズに応えようと熱心に講義をなさる。こんな素晴らしい出会いを数多く提供してきた同講座が終わることになった。一抹の寂しさを感じ、また、ご尽力いただいた方々に感謝の気持ちを抱きながら講演を聴き終えた。

第9回インクルーシブ・フレッシュ研修会

1. 日時：令和2年1月27日（月）16：00～18：00
2. 場所：大阪市立西中学校
3. 内容：障がい理解教育について
担当：大阪市立三国中学校 教諭

1) 実践報告 大阪市立三国中学校の集中実践について

2) 講演会 演題：私が中学生に伝えたいこと

講師：Hさん（全盲） 早川福祉会館 点字図書館勤務

始めに三国中学校の「障がい理解」教育の実践報告があった。三国中学校ではこの3年間、12月の障がい者週間を活用して集中実践に取り組んでいる。1年生はアイマスク等の体験学習、2年生は障がい当事者を学校に招いての講演会、および交流会、3年は教材を使用して教室で学習。3年間の計画で他の人権課題とのバランスを取りながら進めてきている。特にこの研修会では2年生が実践している障がい当事者を講師に招いての講演会と交流会について指導案と生徒たちの感想文を紹介して説明が行われた。

後半はこの講演会に講師として参加している早川福祉会館点字図書館のHさんに「私が中学生に伝えたいこと」と題して講演をいただき、当事者としての率直な意見を頂くとともに、この取組に参加している意義と意思についてお話しいただいた。確かに視覚障がい者であることは不便なことが多い、でも自分が視覚障がい者であるからこそ、皆さんと出会え、交流できる。この気持ちを共有したい。一言一言が心にしみるお話であり、そして参加した者すべてが、障がいのあるなしに関わらず一緒に前を向いて未来を語ろうというメッセージを共有できた研修会であった。

3. 参加者アンケート

今回の研修について

・有意義だった	7	・まあまあ有意義だった	0
・あまり有意義でなかった	0	・有意義でなかった	0
・未回答	0		

4. 感想

- ・障がいのある当事者のお話を聴き勉強になった。
- ・生徒たちにも直接お話を聞かせてであってほしいと思います。今日、自分自身がとても学ぶことが多かったです。本当にありがとうございました。
- ・講師は好奇心旺盛でとても楽しい方でした。お話を聞かせていただいて一瞬で時間が過ぎ今までの人生で経験したことのない新しい世界を感じることができました。ぜひ、本校にも来ていただき、子どもたちと出会って、共にこれからの未来を力強く生きていてほしいと思います。子どもたちに希望を与えてくれる方だと実感しました。
- ・一番印象に残ったのは、あるあるタレントさんの「障がいは個性とは違う、個性とは自分で作っていくものだから」という言葉を挙げて、見えないために出会えた方々がいて、本当にありがたいと思っていると言われたことです。知らなかったことを聴けたこと、やはり当事者の言葉は胸に響きます。
- ・様々な最新の機器、電子アプリも使いこなされているようで、知的好奇心にあふれ、前

向きな生き方がすごいと感じました。ぜひ、またお会いしてお話をお聞きしたいと思います。

第10回インクルーシブ・フレッシュ研修会

1. 日時：令和2年2月4日（火） 16：00～18：00
2. 場所：大阪市立西中学校
3. 内容：意見交流会・次年度の研修に望むこと
担当：大阪市立三国中学校 教諭

◎参加者 3名

- 1) 今年度を振り返って 第1回～9回の記録を参加者で確認した。
- 2) 来年度の研修に向けて課題を話しあった。その中で明日からの実践に役立つ研修会を行ってほしいという要望があげられた。

4. アンケート

今回の研修について

- | | | | |
|--------------|---|-------------|---|
| ・有意義だった | 1 | ・まあまあ有意義だった | 1 |
| ・あまり有意義でなかった | 1 | ・有意義でなかった | 0 |

5 感想

- ・もっとたくさん参加されればいいと思います。
- ・人数が少なくてあまり話が深まらなかった。